

自然派化粧品 宣言

これ以上、化学物質汚染を許さない

(株)カワイ化粧品社長

中村和雄



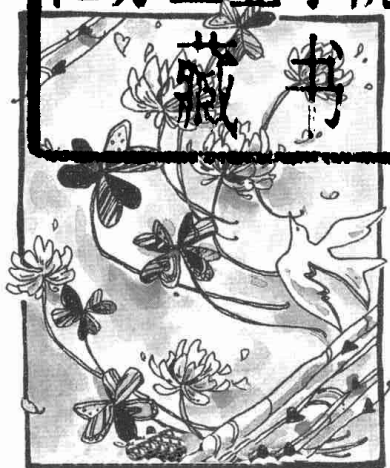
ダイヤモンド社

化粧品 宣言

これ以上、化学物質汚染を許さない

(株)カワイ化粧品社長

中村和雄
江苏工业学院图书馆
藏书章



ダイヤモンド社

著者紹介

中村 和雄 (なかむら・かずお)

1940年11月東京都青梅市に生まれる。若い日より起業への夢を持ち、1975年より自然化粧品品の製造販売を始める。既成化粧品が化学物質に汚染されている現状を打開すべく、環境と健康に配慮した商品開発をめざし、1980年(株)河合美肌研究所を設立、代表取締役社長に就任。以来一貫して「商品に心を」を合言葉に、環境汚染のない商品づくりに努めている。1999年8月(株)カワイ化粧品と社名変更、現在にいたる。

株式会社カワイ化粧品

東京都東大和市立野2-908-1

042-565-4131(代表)

自然派化粧品宣言

——これ以上、化学物質汚染を許さない——

1999年9月30日 初版発行

著者／中村和雄

印刷／松濤印刷

製本／石毛製本所

発行所／ダイヤモンド社

〒150-8409 東京都渋谷区神宮前 6-12-17

<http://www.diamond.co.jp/>

電話／03-5778-7233(編集) 03-5778-7246(販売) 振替口座／00190-6-25976

©1999 Kazuo Nakamura

ISBN4-478-94182-3

落丁・乱丁本はお取替えいたします

Printed in Japan

自然派化粧品宣言

目次

われながら、いい肌 5

娘のつらい体験 9

“かゆい”は“痛い”よりつらい 13

娘の肌で実証した開発化粧品
の安全性と効果 18

第1章
安全な化粧品で美しい肌をつくる

利益優先が悲劇を生む 25

大きなショックを受けた「女子顔面黒皮症」 27

黒皮症の犯人の正体は？ 29

“言うは易く行うは難し” 安全な化粧品づくり 33

危険物四点セットの除去 36

明確なガイドラインがない「自然派化粧品」 39

色香に迷わず 42

試行錯誤と辛酸の連続 45

第2章 美肌をつくる化粧品の五大特長

美肌をつくる五大特長 51

若い女性にも目立つ肌荒れ、乾燥肌 54

こわいのは皮膚細胞の“だんご3兄弟”化 59

健康な肌は弱酸性 62

化粧品にも含まれている環境ホルモン物質 66

皮膚機能を正常に戻す皮脂膜の研究と成分 71

いじめられた肌は復讐する 74

第3章

美肌をつくる肌の仕組み

「母子健康手帳」から消えた「日光浴」のすすめ 81

肌が生まれ変わる仕組み 84

“みずみずしい肌”の水源 89

クスミの出る肌、出ない肌 91

小麦色の肌の代償は高い 94

第4章

風土と共に生きる化粧品

雑木林は四季の化粧をする 101

大地は無限の生命を生み出す偉大な資源 103

「未来を開くトビラ」と「終焉のトビラ」 106

文明と自然がけんかするとき 109

エコロジー・マネジメントの発想 113

風土で生まれた生命を生かす化粧品を 115

第5章 化粧が「心のエネルギー」を充実させる

「真・善・美」は人間の根源的欲求 121

「善とは決して失敗しない唯一の投資である」 123

夢をプロジェクトとして起ち上げる 126

「心のエネルギー」を充実させる化粧 128

閉じた心から輝きは出てこない 131

高ストレスにさよならする技術 134

第6章 美的本能としての「四〇〇〇年の化粧」

化粧は美を他人に見せるだけのものではない 141

四二〇〇年前から鏡に向かつてきた人間 145

化粧が庶民の文化になったとき 148

化粧は「創造」的な営みである 150

自分自身をとり戻す化粧の効用 153

「メイク」は奥が深い 155

第7章 「信頼のネットワーク」をつくる

心の動きを正直に映すもの 161

「晴れ」の日の化粧、「曇り」の日の化粧 164

自然と向き合って生きる 167

「信頼」のネットワークをつくる 169

第8章

「美」のカルチャーは世代を超える

173

大きな仕事を生み出す女性の感性 175

「表情」が勝負を決めるとき 178

化粧美のカルチャーは年代を超越する 182

第9章

化学物質汚染をこのままにしておけない

187

「燃えないゴミ」の山を見て思う 189

商品の包装材も化学物質に頼らない配慮を 191

何が本物かを見分ける目 194

エピローグ

本物志向の目を持とう

197

最後に強調しておきたい美肌七か条 199

第一から第四までの強調点について
第五から第七までの強調点について

205 201

あとがき
参考文献

213 209

企画——市川 晃一

挿画——高田 美果

装丁——勝木 雄二

自然派化粧品宣言

——これ以上、化学物質汚染を許さない

ブ
ロ
ー
グ

.....

美
肌
一
筋



われながら、いい肌

最初から自慢話めいて恐縮ですが、私の肌はしつとりとスベスベして艶があり、シミやクスマがありません。自分で自分のからだの皮膚をなでてみて、いつも、いい肌だ、とわれながら感心します。

私の妻も餅肌で、きめのこまかい肌をしていますが、「美肌」という点では私のほうが勝っていると、ひそかに自負しています。じつに美肌は一〇歳も若く見せるものです。

五〇代半ばを過ぎた男性の私が、このように肌について語ると奇異な感じを持たれるかもしれませんが、私は人間の美しい肌を追求することに人生の大半を費やしてきました。

「美肌一筋」——私の人生をひと言であらわすならば、この言葉に尽きます。

「男だつて女だつて、美しい肌でいたい！」

これは二〇代、三〇代の男性に人気の雑誌が、スキンケアの特集を組んだときに、表紙に掲げたキャッチ・フレーズです。いまや男性雑誌も肌の手入れのための特集を組む時代です。

こうした時代の流れを、“男らしさ”が失われるととらえて嘆く風潮もありますが、美肌とはなにかといえば、それは健康な肌にはかなりません。美しい健康な肌でありたいと願うのは、なにも女性のみに許された特権ではなく、男性がそう願ったとしてもなんの不思議もないことです。健康な肌を維持したいと思う気持ちには、男性も女性も変わりありません。

“男らしさ”をいうならば、それは、強きをくじき弱きを助ける気概や危険をもつとせず、困難に立ち向かう勇氣などの有無に求めるべきでしょう。女性から見た“イイ男の条件”を尋ねる最近の種々の調査でも、「清潔感があつて爽やかな人」が最上位に挙げられています。清潔感とは肌が与える印象に大きく左右されます。肌への関心を持つ男性が増えている背景には、女性の男性に対するこのような好みの変化もあると思われます。

私は、化粧品という仕事を通じて、美しい肌の実現を追い求めてきました。

こういうと、化粧品業界にいるのなら、いろいろな化粧品をふんだんに使えるのだから、人より美しい肌になるのは当たり前だろうと、多くの人は思うかもしれませんが、しかし、美肌の追求一筋に歩んできた私にいわせれば、それは大きな誤解です。

美しい肌を実現しようと思うならば、なるべく化粧品は数多く使わないほうがいいので